

財政収支(2017年1-4月)

(1) 2017年1-4月における歳入は前年同期比9.0%増。法人税や付加価値税の伸びが大きく、税収は12.6%の増加となった。

(2) 歳出面では、経常移転が前年同期比34.9%増加するなど、歳出全体では22.5%の増加となった。

(3) 財政収支は179億リラの赤字となり前年同期から大幅のマイナス。プライマリーバランスは83.0%減少し、42億リラの黒字。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	181,420	197,777	9.0%
税収	140,989	158,699	12.6%
所得税	30,708	33,262	8.3%
法人税	10,844	13,251	22.2%
付加価値税(国内及び輸入)	41,094	46,890	14.1%
特別消費税	34,116	38,569	13.1%
その他税収	24,227	26,727	10.3%
税外収入等	40,431	39,078	▲3.3%
歳出(b)	176,016	215,657	22.5%
人件費	51,188	55,261	8.0%
物品及びサービスの購入	13,863	16,500	19.0%
経常移転	71,861	96,971	34.9%
資本支出	6,556	9,325	42.2%
支払利子(c)	19,149	22,050	15.1%
その他歳出	13,399	15,550	16.1%
財政収支(a-b)	5,404	▲17,880	▲430.9%
基礎的財政収支(a-(b-c))	24,553	4,170	▲83.0%

経常収支(2017年1-3月)

(1) 2017年1-3月の経常収支は、前年同期比5.2%減少し、83億ドルの赤字。

(2) サービス収支は、前年同期比0.1%の減少。うち旅行収支は同5.0%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

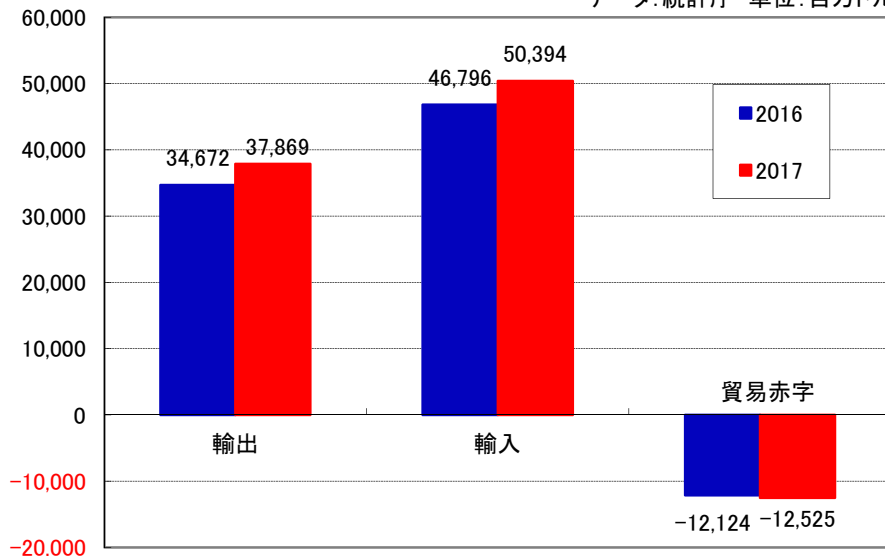
内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲ 7,888	▲ 8,296	▲ 5.2%
貿易収支(物品)	▲ 8,269	▲ 8,363	▲ 1.1%
サービス収支	1,762	1,760	▲ 0.1%
旅行収支	1,917	2,013	5.0%
その他サービス収支	▲ 155	▲ 253	▲ 63.2%
第1次所得収支	▲ 1,914	▲ 2,155	▲ 12.6%
第2次所得収支	533	462	▲ 13.3%
労働者送金	126	113	▲ 10.3%
その他第2次所得収支	407	349	▲ 14.3%
資本移転等収支	15	▲ 16	▲ 206.7%
金融収支	▲ 5,551	▲ 10,480	▲ 88.8%
直接投資	▲ 1,986	▲ 1,967	1.0%
証券投資	▲ 2,800	▲ 4,420	▲ 57.9%
その他投資	▲ 2,872	▲ 97	96.6%
外貨準備	2,107	▲ 3,996	▲ 289.7%
誤差脱漏	2,322	▲ 2,168	▲ 193.4%

貿易収支(2017年1-3月)

(1) 2017年1-3月の輸出額は379億ドル(前年比9.2%増)、輸入額は504億ドル(同7.7%増)となり、この結果貿易赤字は125億ドル(同3.3%減)となった。

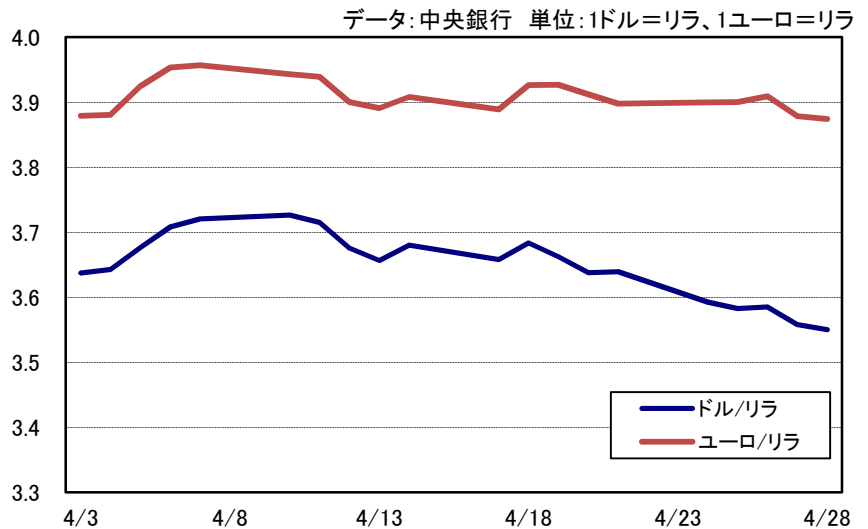
(2) 2017年1-3月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は46.5%(前年48.2%)、輸入額におけるEU向け輸入の占める割合は35.8%(同38.7%)となっている。

データ:統計庁 単位:百万ドル



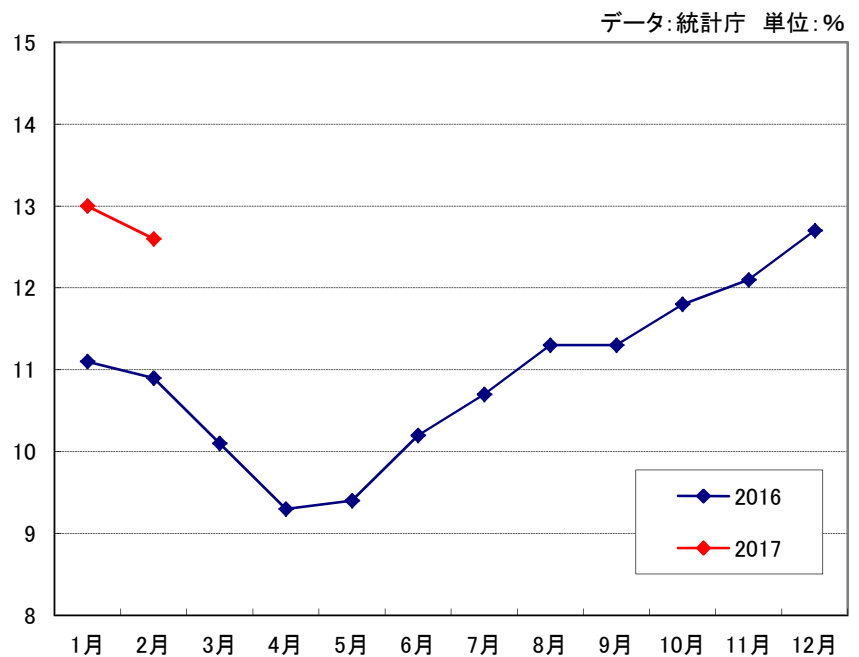
為替(4月)

(1)4月のドル・リラ相場は、上旬はやや軟調に推移したが、中旬以降はリラが買い進められ、最終的には1ドル=3.55リラとなった。
 (2)ユーロ・リラ相場は月を通して安定した動きとなり、月初とほぼ変わらない1ユーロ=3.87リラで越月した。



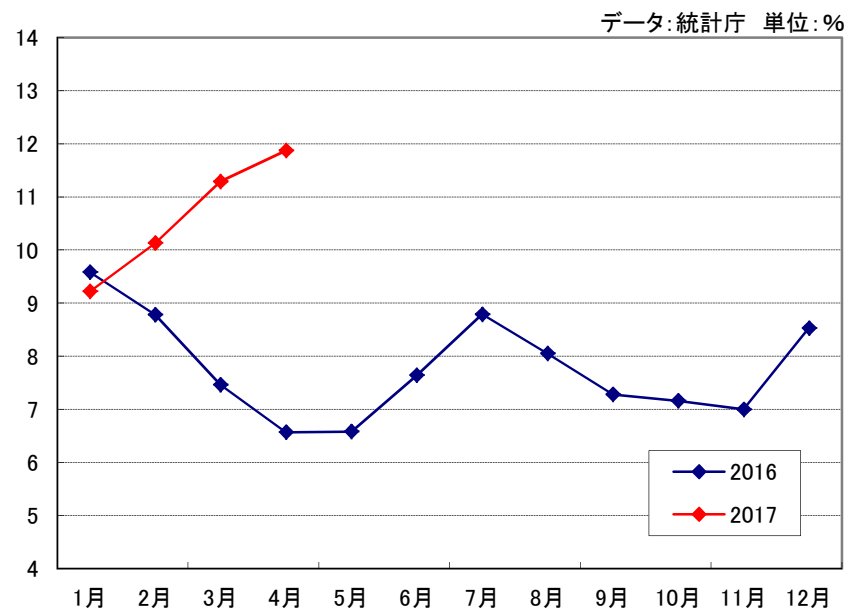
失業率(2月)

(1)2017年2月期の失業率は、12.6%。前年同期からは1.7ポイントの上昇、前月からは0.4ポイントの下落。
 (2)労働力人口は3,086万人、就労者数は2,696万人、失業者数は390万人。
 (3)男性の失業率は11.7%、女性は14.8%。若年層(15-24歳)の失業率は23.3%となっている。



物価上昇率(4月)

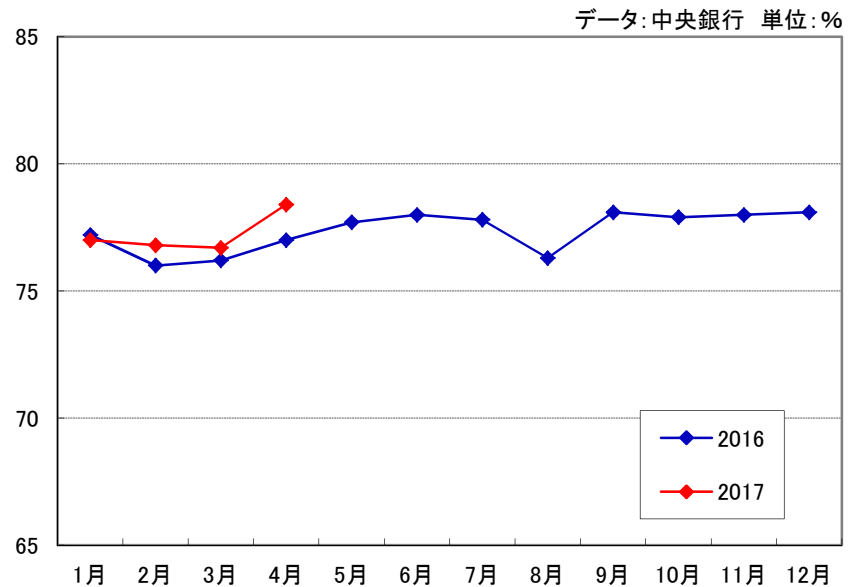
(1)2017年4月の消費者物価は前月から1.31%の増加。年間では11.87%の上昇。
 (2)分野別に見ると、前月と比べて最も上昇したのは衣類・履物類で9.13%。年間で最も上昇したのもアルコール飲料・タバコで21.65%。
 (3)本年末の中銀見通しは8.5%。
 (4)国内生産者物価指数は前月から0.76%上昇し、年間で16.37%の上昇となった。



設備稼働率(4月)

(1) 2017年4月の設備稼働率は78.4%となり、前月から1.7ポイントの上昇。前年同月からは1.4ポイントの上昇となった。

(2) 製造業の分野別では、自動車、トレーラー及びセミトレーラー(87.4%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(59.6%)が最も低い稼働率であった。

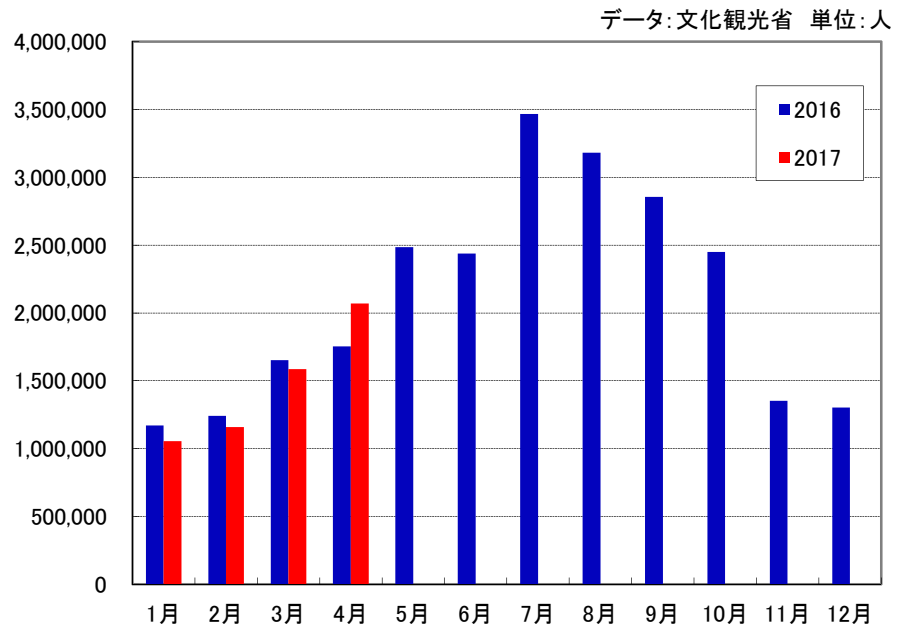


旅行者数(4月)

(1) 2017年4月にトルコを訪れた旅行者は207万人であり、前年同月比18.1%増となった。

(2) 旅行者数を国別に見るとドイツからの旅行者数が最も多く26.3万人で全体の12.6%を占める。以下、ロシア(18.2万人)、ジョージア(18.0万人)となっている。

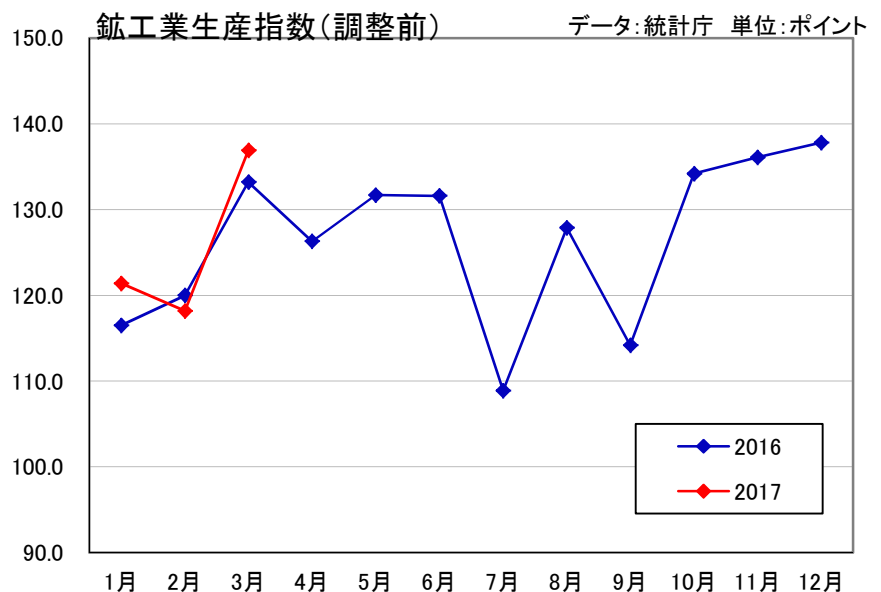
(3) なお、日本からの旅行者は2,917人(前年同月比18.6%減)となった。



鉱工業生産指数(3月)

(1) 2017年3月期の鉱工業生産指数(調整前)は136.9ポイント(2010年=100)となり、日数調整後の前年同月比は2.8%の上昇、季節及び日数調整後の前月比は1.3%の上昇。

(2) 分野別では、耐久消費財が前月比6.4%増、中間財が同2.7%増となっている。



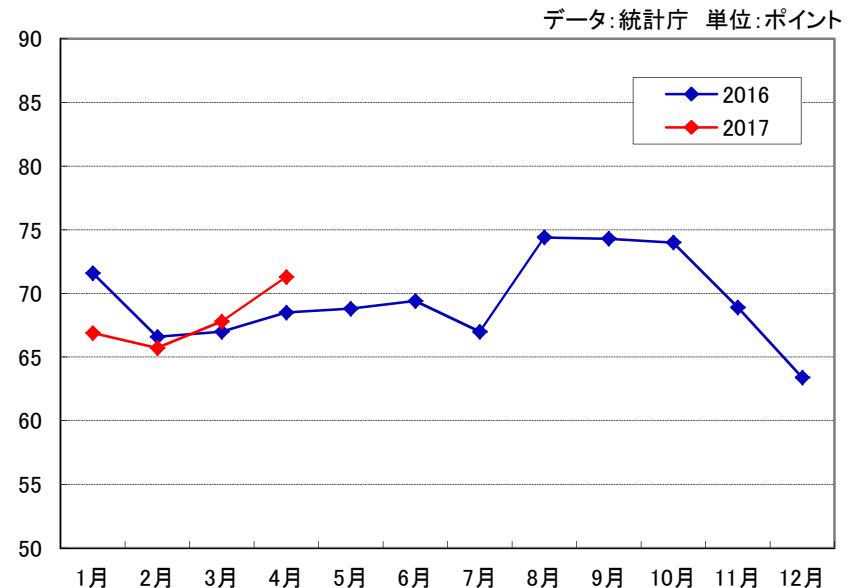
外貨準備高(4月)

(1)2017年4月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,027億ドルとなった。
 (2)外貨準備高は、近年順調に増加していたが、2012年の水準まで落ち込んでいる。



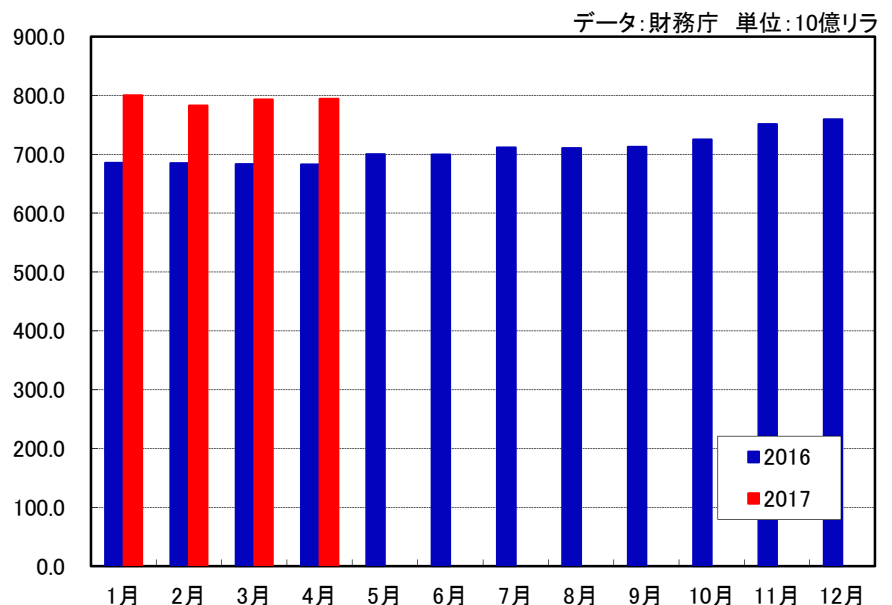
消費者信頼感指数(4月)

(1)2017年4月期の消費者信頼感指数は前月の67.8ポイントから5.1%上昇し、71.3ポイントとなった。
 (2)内訳では、貯蓄可能性が26.3%上昇し25.1ポイント、失業者数の見通しが3.7%上昇し73.1ポイントとなった。



中央政府債務残高(4月)

(1)2017年4月時点での中央政府債務残高は7,945億リラとなり、前年同期比16.3%増加した。なお、前月比では0.2%の増加となった。
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に61.3%となっている。
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.6%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。